



きくがわ 社協だより

No.89
2012年
7月発行

ホームページ <http://www.kiku-syakyou.or.jp/>

社協(社会福祉協議会)は、みなさんと共に
「安心していきいき暮らせるまち」を考え、推進する民間団体です。

ボランティア活動は暮らしとまちを元気にします



高校生の活動

演奏

音訳テープのダビング

読み聞かせ

ボランティアの勉強会

託児

病院での受付

踏み出した一歩(種)から、
ボランティアの花咲いた!

ボランティア活動は個人の自発的な意思に基づく自主的な活動であり、個人の自己実現への欲求や社会参加意欲が充足されるだけでなく、活動の広がりによって社会貢献や福祉活動への関心が高まり、共に支え合い交流する地域づくりが進むなど、大きな意義を持っています。

市内でも、さまざまな人・場所・内容でボランティア活動が行われています。

さあ、あなたもボランティア活動へ、一歩を踏み出しませんか?

社会福祉法人 菊川市社会福祉協議会
〒439-0019 静岡県菊川市半済1865(プラザけやき内)

☎(0537)35-3724 Fax(0537)35-3202
Eメール info@kiku-syakyou.or.jp

菊川市に見る ボランティア活動の状況

菊川市社会福祉協議会ボランティアセンター（野崎）、菊川市教育委員会ボランティア活動支援センター（津野）および学校支援地域本部（片山・山中）（以上ボランティア活動をコーディネートする立場から）、東遠学園（山口）（ボランティアを受け入れる立場から）、小笠高校（藤井）（ボランティアを送り出す立場から）、それぞれにお話を伺いました。

『それぞれの役割の説明やボランティアの状況など』

野崎 ボランティア活動に関する情報提供や相談の受付、活動を希望する方と募集する側の調整、ボランティア活動に関する講座の開催、ボランティア活動保険加入受付などを行っています。幅広い年代、男女を問わずご利用頂いています。ボランティア活動への参加はボランティアグループへの加入や、施設・学校・地域の中での活動、趣味を活かしての活動、個人登録をしてニーズが出たところでの活動、加入する組織や団体の活動の一環での活動と、様々ですが、ボランティアセンターに登録のボランティアグループだけでも47グループ、述べ1000人程になります。たくさんの方が、市内のさまざまな場所で、さまざまな活動をされています。

津野 菊川市ボランティア



野崎恭子さん

ア推進事業の中で、年間を通して児童生徒（小中学生）に情報提供を行っています。これは、ボランティアクラブに登録してくれた児童生徒（小中学生）に、各学校を経由して「ボランティア体験活動一覧表」を配布し、児童生徒に活動先を選んでもらい、調整する内容です。受け入れ先は福祉施設が多かったですが、最近では地区センターなど地域の中で活動できる内容もあります。今年度から社協ボランティアセンターと連携し、「受け入れ先と参加者がお互いに活動しやすい」様に、「児童生徒が次の活動につなげていける」様に、また「考えて参加が出来る」様に、参加する児童生徒の事前事後学習に取り組んでいます。

片山 学校支援地域本部事業の中で、学校支援ボランティアの調整をしています。小学校では読み聞かせ、クラブ活動の指導、図書室や花壇の整備、中学校でも読み聞かせや、部活動の指導の活動が多くみられます。今年度からは子どもの関係する合唱コンクール等の市の行事へのボランティア参加の協力もいただきます。市への登録は77名ですが、各学校へ登録し活動している方もあわせると285人の方に活動していただいています。

山中 地域本部事業も4年目に入り、ボランティアさんと子ども達が関わる姿を見ていると事業の必要性を強く感じます。子ども達にとっても異世代、大人との交流は、優しさや思いやりの気持ちを育てるうえで、とても大切なことと思います。ボランティアの皆さまも趣味や特性を活かしながら子



山中和子さん

ども達と楽しい時間を過ごすことが学校のお手伝いになれるならと喜んで協力してくださっており感謝しております。

野崎 地域の方が学校に入っていく機会になりますし、子ども達にとっても地域の中に知っておじさんやおばさんが増えることは心強いですね。ボランティア活動されている方の中では、例えば学校支援ボランティアと社協ボラセン登録のボランティアグループなど、いくつかの活動を重ねてしている方も多いです。

山口 さまざまなボランティアに来ていただいています。小中高生だけでなく、社会人の方にも来ていただいています。なるべく希望に合った活動へ参加していただけるようにしています。利用者さんと接する直接的な活動もあれば、趣味を活かした間接的な活動もあります。例えば音楽やお茶、お花等なかなか日頃の生活では利用者は触れにくい内容ですが、普段と違う楽しみから利用者の活動の幅も広がっています。ボランティアと接する中で、いつもと違う利用者の表情も見られます。またボランティア活動を通して施設のこと、利用者のことを知ってもらうきっかけにもなっています。

藤井 高校は広域から生徒が集まるので、活動場所と家が近いのか遠いのか、実際そこまで自分で行けるのか行けないのかで活動が決まるといふ難しさがあります。また、「友達が行けない（行かない）から自分も止める」となりやすい現状もあり残念に思います。



藤井桃子さん

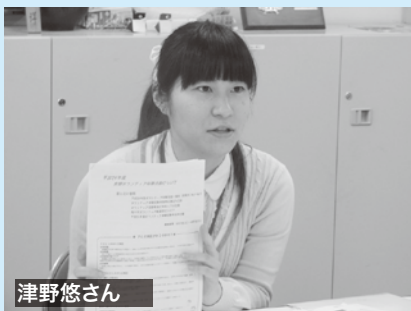
『ボランティアとの関わりの中から感じること・印象深かったこと』

山口 以前中学生の体育会系の男子生徒がボランティアに来て、最初は戸惑っている様子でしたが、ある利用者とアニメの話題で共通点を見つけた話が弾み、交流を通して戸惑いが消え、「楽しい。また来たい。」ときっかけは様々ですが、そのきっかけがよい機会になると良いと感じました。

野崎 実際に交流して触れ合い、知り合うことで、「自分とは違う」とか「こわい」等といったマイナスイメージが消えて、入っていけることもあるようです。自分がボランティアと接する中で感じることは、いきいきと自分も楽しみなが活動されている方が多いこと。また以前ボランティアへの聞き取り調査で、活動への参加動機とメリットをお聞きしたことがあります。「人のため、社会のためになりたい。」「良いことがしたい。」「始めた活動が、「逆にエネルギーをもらえる。」「自分のためになっている。』と答えた方が多く、うれしい気持ちになりました。

片山 「自分は何も出来ないよ。」「技術が無いと出来ない。』と思っている方が多いです。『見守りでも話し相手でも…』と薦め、実際活動して頂くと、「子ども達との距離が縮まりうれしい。』という感想を頂きました。

津野 中学までボランティア活動に参加した子が、高校生になると活動が途切れてしまうことが残念で気になっています。うまく橋渡しし、次のステップにつな



津野悠さん

げていきたいと思っています。社協ボランティアセンターと連携してつなげて行きたいです。

片山 「敷居が高い」という学校のイメージが、ボランティアの受け入れを行うことで「親近感を持てるようになった」という声を聞きました。

ボランティアからは「子ども達に声を掛けやすくなりうれしい。』という声も聞こえてきています。



片山哲也さん

『今後のボランティア活動に望む姿など』

藤井 きっかけは授業とか強制とかもあるが、できればその後継続的に活動出来る様に、また友達と一緒にではなく、活動したい気持ちがあれば自分一人でも参加出来る様な子たちに育ってほしいと思います。

山中 登録者も年々少しずつ増え、この事業が市民の皆さまに少しずつ浸透してきているのではないかと感じます。さらに各団体の協力をいただきながら、学校との連携を密に多くの情報提供をしていき、将来は支援本部がなくてもボランティア活動が行われるよう土台作りをしていきたいと思っています。

津野 社協ボランティアセンターとも連携を図りながら、受け入れ先・学校・児童生徒が共に活動しやすい形を模索していきたいです。子ども達は興味を広げ、ボランティア活動に参加してほしいと思います。

片山 学校にボランティアの受け入れがしやすい、またボランティアの方も不安なく活動出来る

様にし、情報発信にも力を入れたいです。

山口 ボランティアも利用者も一緒に楽しんで活動してほしいと思います。ボランティアに来た人には「また来たい」と思ってもらえるような環境づくりをこれからもしていきたいと思っています。

野崎 「ボランティアをしたい、してみようか。」と思った時は、まず最初の一步を踏み出してほしいです。そんな時にボランティアセンターなど、コーディネートする立場の私たちが背中を後押しします。そして「継続は力なり。」「無理をせず出来る範囲で、末永く、活動が続けてほしいと思います。実際にボランティア活動に参加されている方は、ボランティアの仲間づくり（ボランティアがボランティアを呼ぶ）をお願いしたいです。口コミって結構大きいんですよ。また菊川市内でたくさんの子ども達がボランティア活動に参加しています。次代を担う子ども達を、是非みなさんの力をお借りして、育てて行きたいです。

菊川市のボランティア活動が更に活発に、更に良いものになっていく様に、ボランティア活動をコーディネートする立場、ボランティアを受け入れる立場、ボランティアを送り出す立場、それぞれが連携し合いながら、より良い活動支援が行える様に努めていければと思います。



山口盛弘さん

笑顔、輝いてます ―第12回―

「菊川市のボランティアの輪を広げましょう」

Q. 「ボランティア連絡協議会ゆう&あい菊川」の活動について教えてください。

A. 2ヶ月に1回、理事会を開催しています。理事の中で担当を決めて、担当別に行事予定を立てています。年間の活動内容として、総会、他市町との交流会、社会福祉協議会と共催の講演会、会員の交流会、会報の発行などを実施しています。わきあいあいとやっています。

Q. ボランティアを始めたきっかけは何ですか？

A. 私はBRN（バイクレスキューネットワーク）きくがわに所属しています。県の防災訓練が菊川市で行われた時に立ち上げたボランティアグループです。その頃、大須賀、大東、浜岡、掛川にはこのグループがありましたが、菊川にはありませんでした。菊川にも必要だと考えスタートしました。「発災72時間以内に公共機関に情報を届けること」「緊急物資や医療品の搬入」等を目的としています。

Q. ボランティア活動をする中で感じていることを教えてください。

A. ボランティアは幅が広いということです。ちょっとした親切がボランティアなのだと思います。悩みとしては、若い人たちがボランティア団体に入ってきてくれないことと、ボランティア連絡協議会に加入している団体が少ないことです。個人でボランティアをすることももちろんよいですが、団体に所属していると情報が入りやすい面があります。また、他の団体のみなさんとの交流の中で得た情報を、自分たちの団体の活動に取り入れることができますので、ぜひボランティア連絡協議会に加入してほしいと思います。

ボランティアは人とのつきあいが大切ですね。隣は何をする人ぞではなく、会話があれば世の中変わるかなと思っています。

Q. これからの目標や抱負をお聞かせください。

A. 「ボランティア連絡協議会ゆう&あい」の会員数を増やしたいです。そして、いろいろな情報を得て、マンネリを打破したいです。ボランティア団体の活動はさまざまですが、どの団体も次の世代につなげていきたいですね。活動はひとりで背負い込んだらやっていけません。みんなで協力し合ってやっていきましょう。

「ボランティア連絡協議会ゆう&あい菊川」（通称 ボラ連）の会長として5年目を迎えた井伊谷さんです。井伊谷さんとお話していると、不思議と穏やかな気持ちになります。ボラ連会員のみなさんも、いつも井伊谷さんの笑顔に癒されていることでしょうね。



井伊谷藤雄さん(公文名)

社会福祉法人 草笛の会

草笛の会は、昭和 50 年 10 月に法人認可を取得し、翌昭和 51 年 2 月に知的障害者授産施設 草笛共同作業所(定員 30 名)を行政、市民の皆さんの協力があって開設致することができました。

成人施設がなかった当時“僕達だって働きたい”という切実な願いのもと、菊川・小笠両町の「手をつなぐ親の会」(現育成会)によって施設建設の取り組みが始まり、昭和 50 年 4 月に旧小笠町内に 28 名の利用者により、無認可作業所が始まったのが出発となりました。

法人設立から 30 年以上が経ち、障害があっても“地域で暮らす”という法人設立の理念のもと事業を進め現在、就労支援事業所「草笛共同作業所」が「だいとう作業場」「はまおか作業場」「つばき作業場」を含め 4 ヶ所、日中活動支援(生活介護)事業所は、「かすが」「ウェルくさぶえ」の 2 ヶ所の通所事業があり、生活支援事業である入所支援事業「菊川寮」(定員 55 名)とグループホーム・ケアホーム「16 ヶ所 定員 100 名」をかぞえ、地域生活を支えています。

また、居宅介護事業、福祉有償運送事業、相談事業も行い在宅支援も取り組んでいます。

法人支援理念に“地域との交流を積極的に進め、地域に根ざした施設づくりを目指す”と謳っており、地域の資源として年間を通して中学生、高校生の福祉体験、作業や介護等のお手伝いボランティア、音楽や陶芸、料理作りなどボランティアさんとの交流を図ってきました。

また、法人最大の行事、夏の祭典では、利用者・家族・ボランティアさんとするイベントとして今年で 30 回を迎えます。

これからも、福祉教育、福祉交流の拠点としての役割を担っていきます。

社会福祉法人草笛の会 草笛共同作業所 施設長 成瀬 弘之



▲岳洋中学校福祉体験



▲小笠ライオンズクラブ作業奉仕

第 30 回くさぶえ夏の祭典

知的障害者の人たちが日々の仕事を通じて社会参加をしています。地域の皆さまとの交流を深める事を目的に今年も行いますので、ぜひ御来場ください。

日 時	平成 24 年 8 月 4 日(土) 10:00 ~ 17:00
会 場	社会福祉法人草笛の会施設内 菊川市上平川 7-1
内 容	チャリティバザー 施設紹介 ふれあいステージ 模擬店
問合せ先	草笛の会 草笛共同作業所 ☎73-5239

精神障がい理解普及啓発交流事業「ふれあい企画」を開催しました

交流を通して、障がいについての理解を深めようと、学生（高校生等）と障がい当事者の皆さんを中心に、菊川インター花壇の植え替えを行う「花植え班」と昼食の準備を行う「調理班」に分かれ、活動しました。

花壇には「菊川市にきた方の目と心を癒せましょう」と、NEXCO中日本や菊川市花の会から御提供いただいたサルビア等約 1000 本を植えました。昼食はカレーライスとフルーツポンチ作り。それぞれ活動を通して交流・理解を深めました。



視覚障がい者の移動支援を学びました



光陽荘（潮海寺）と、身体障害者福祉会 視覚障がい者部のみなさんに御協力いただき、ガイドヘルパー研修会を実施しました。

1 日目に、光陽荘 伊東眞由美 氏から、講義「移動介護の基礎知識」と演習「移動介護の基本技術」を御指導いただき、2 日目は実際に視覚障がいの方をガイドする演習を行いました。演習後、視覚障がいの方のみなさんと意見交換や情報交換を行う中で、ガイドヘルパー業務についての確認や検証がなされました。

「みねだおげんき会」楽しい時間を過ごしました♪

嶺田地区において、お一人で暮している高齢者同士で楽しい時間を過ごし、仲間づくりをしていただこうと、嶺田地区地域サポーター「サポーターみねだ」のみなさんが企画され、嶺田地区の民生委員児童委員のみなさんの御協力により、みねだ会館にて開催しました。レクリエーションや食事会などにより笑顔のあふれる楽しい時間を過ごしました。今後も継続的に開催する予定です。



ボランティアの広場

ボランティアの輪・和・話(三つのわ)

「点訳サークル泉」

私たちは点訳を通して、視覚障がい者への情報提供や交流活動を行っています。カレンダーや電車・バスの時刻表の点訳や点訳本の作成と貸し出しなど視覚障がい者の希望に添った活動や、毎月障害者支援施設「光陽荘」利用者との交流が主な活動内容です。点字は点訳する上での決まり事も多く、1つ間違えることによって、視覚障がい者に伝わるのが全く変わってしまうため、一人が点訳したものを、他の会員が必ず確認しています。大変ですが、その分会員同士結束も深まります。点訳に興味関心のある方は、是非一度定例会をのぞいてみてください。

定例会 毎月第2・第4月曜日 13:30～15:30
プラザけやき

問合せ先 ボランティアセンター ☎35-6385



参加者募集 真夏のサンタクロースになろう!

パティシエさんと、美味しいお菓子を作ってみましょう。そして真夏のサンタクロースとなって、プレゼントしましょう!!

- 日時 平成24年8月21日(火) 9:00～17:00
会場 プラザけやき
対象 ボランティア活動や地域活動に関心がある高校生
定員 15名(先着順)
内容 ①パティシエさんと一緒にお菓子をつくろう!
②ジャンボシャボン玉に入っちゃおう!
③真夏のサンタクロースになろう!

参加費 500円

参加申込み 8月10日(金)までに、参加申込書を御提出ください。
参加申込書は社会福祉協議会にあります。
またホームページからもダウンロードすることが出来ます。

申込み・問合せ先 菊川市社会福祉協議会 ☎35-3724



ボランティアミニ知識～ボランティアの原則：無償性(無報酬性・非営利性)～

「金儲け」ではなく「人儲け」。活動を通じてさまざまな人との出会いや感動を得ることができる活動です。精神的報酬を得る活動であっても、金銭的報酬を期待して行うものではありませんが、活動に伴う費用(交通費や材料費など)は「実費弁償」として考えられます。

求むボランティアさん

問合せ先
ボランティアセンター ☎35-6385

～施設でのボランティア～

障害者支援施設 光陽荘「外出支援」

- 活動内容 利用者の買い物・ドライブのお手伝い、
付き添い(車の運転はなし)
活動日時 木曜日 13:30～16:30
募集対象 一般、学生(大学生・専門学校生・高校生)

軽費老人ホーム 和松園「話し相手・クラブ活動の手伝い」

- 活動内容 ・話し相手やゲームの補助
・クラブ活動の手伝い
・園内の掃除や草取りを利用者で行う
活動日時 随時 9:00～12:00 または 13:30～15:30
募集対象 一般、学生(小学4年生以上から)

ご利用ください～菊川市社会福祉協議会ボランティアセンター土日開所～

8月のボランティアセンター土日開所日は、11日(土)、19日(日)です。

ボランティア相談 月～金曜日 8:15～17:00 プラザけやき ☎36-6385

参加者募集 各種事業

菊川市社会福祉協議会正規職員募集

- 受験資格** 昭和61年4月2日から平成3年4月1日までに生まれた者で、社会福祉士登録者又は平成25年3月31日までに同資格を取得見込みの者
- 試験概要** 一次試験：平成24年9月30日(日)
論文試験、面接試験(グループ面接)
二次試験：平成24年10月21日(日)
面接試験(個人面接)
*いずれも、ブラザけやきで行います。
- 採用予定人員** 一般事務正規職員 1人(平成25年4月1日付け採用)
- 受付期間** 平成24年8月10日(金)8:15から平成24年9月10日(月)17:00まで
*ただし、土・日曜日は除く。
- 申し込み** 菊川市社協(菊川市半済1865 ブラザけやき内)で応募要領と受験申込書(所定様式)を配布します。受験申込書に必要事項を記入し、受付期限までに総務経理係へ提出してください。
- 問合せ先** 菊川市社会福祉協議会 (落合) ☎35-3724

「ふれあい広場 ポスターの絵」を募集します

「ふれあい広場」や「ふれあい」をイメージした絵をお寄せください。多数のご応募をお待ちしています。

- 大きさ** A4からA3サイズ程度 横向き
- 応募方法** 社会福祉協議会に直接お持ちいただくか、郵送をお願いします。
- 締切** 平成24年8月15日(水)
- その他** ・応募いただいた絵は返却いたしませんのでご了承ください。
・応募の中から1作品を採用させていただきます。
・採用されなかった絵については、ふれあい広場会場に展示させていただく予定です。
- 問合せ先** 菊川市社会福祉協議会 (石川) ☎35-3724

きたるべき日に備えて!! 災害ボランティア支援本部立ち上げ訓練 参加者(個人・自主防災会・企業団体)募集

昨年3月に発生した東日本大震災においては今もなお、被災地の多くの市町村社協が、全国から集まり復興のために汗を流して下さるボランティアのみなさまと被災によりニーズを抱える住民の双方を支援しています。

菊川市においてもきたるべき大規模災害に備えて「菊川災害ボランティアコーディネーター(菊ボコ)」と協働で『災害ボランティア支援本部』立ち上げ訓練を行います。

～災害ボランティア支援本部の役割～

- ① 避難所や被災現場でのニーズ収集
- ② 県内外から駆け付けるボランティア受付
- ③ 必要な人材(ボランティア)を必要な場所へ調整の上派遣

「災害ボランティア支援本部」の役割を多くのみなさまに知っていただくこと、自主防災会や関係機関、企業のみなさまとの継続的な連携を保つこと、またそれらに必要な相互理解を深めることにより地域防災力(=地域の福祉力)を高めることを目的に、災害ボランティア役として、訓練に参加協力していただける個人・自主防災会・企業団体を募集します。(参加の方法は個別に対応します。)

日時 平成24年8月25日(土) 9:40～12:00(雨天決行)

会場 ブラザけやきを主会場に市内各所に派遣

問合せ先 菊川市社会福祉協議会 (橋本) ☎35-3724



相談窓口

福祉総合相談

日時 月～金曜日
8:15～17:00

会場 ブラザけやき

心配ごと相談

日時 8月1日(水) 9:00～12:00
8月15日(水) 13:00～16:00

会場 ブラザけやき

日時 8月6日(月) 13:00～16:00
8月20日(月) 9:00～12:00

会場 菊川市役所 小笠支所

結婚相談

日時 8月2日(木) 18:00～21:00
(受付20:00まで)
8月19日(日) 9:00～12:00
(受付11:00まで)

会場 ブラザけやき
※初めての方は写真と印鑑をご持参ください。